

<合理的配慮の事例>



いたばし観光キャラクター
りんりんちゃん

合理的配慮の事例

ページ

○手指を使った細かい作業への配慮	19
○体の動きがぎこちない	20
○図形の面積を計算することが難しい	21
○不安が強く書いたり話したりすることが難しい	22
○図形に関する概念が弱い	23
○十進法の位取りの関係の理解や計算の過程を考えるのが難しい	24
○自分の考えを文章で表現することが苦手	25
○初めての活動は一斉指示のみで理解することが難しい	26
○既習事項を新たな学習につなげることが難しい	27
○マット運動が苦手	28
○結果の予測が難しい課題や勝敗がつく活動に苦手意識をもつ	29
○資料の内容理解が難しい	30
○登場人物の気持ちを考えて表現することが難しい	31
○学習問題に関心をもち、予想を立てることが難しい	32
○考えをはっきりと伝えることが苦手	33
○友達の考えを理解したり、自分の考えを表したりして意見の交流を することが難しい	34
○板書を書き写すなど書くことが苦手	35
○手指を使った細かい作業が苦手	36
○音に敏感だったり、目に入るものに意識が向き注意散漫になりやすい	37
○定規で線を引いたり、目盛りを読んだりすることが苦手	38
○やり方やルールを児童に個別指示することを減らしたい	39
○朝会で身体を動かしたり、独り言を話したり集中して参加しづらい 児童への配慮	40
○制作の初期段階で理解できない	41
○プリントのどこに書いていいかわからない	42
○何を考えればいいのか分からない	43
○全体の指導では指示が聞けない	44
○文字がまっすぐに書けない	45
○車いす使用者への配慮	46
○正しい発音ができない・難しい	47
○構音障がいの子の音読時の配慮	48
○発音の誤りへの配慮	49
○吃音の子の音読時の配慮①	50

合理的配慮の事例

ページ

○吃音の音読時の配慮②	5 1
○吃音のためにスムーズに話せない	5 2
○自分の吃音を気にしている児童生徒への配慮	5 3
○分からない言葉や言い回しが多い	5 4
○友達と同じペースで課題をこなせない	5 5
○読み書きの困難さへの配慮	5 6
○発音や吃音、言語発達の遅れによる自信喪失に対する配慮	5 7
○話すことへの配慮①	5 8
○話すことへの配慮②	5 9
○ことばの専門性の活用	6 0
○ことばの障がいへの理解啓発	6 1
○言語障がい児への災害時への支援体制	6 2
○聞こえにくさを補う	6 3
○聞こえにくさを視覚で補う	6 4
○ヒアリングテストが聞き取りにくい	6 5
○屋外や体育館では声が聞こえにくい	6 6
○授業中の聞こえにくさを視覚で補う	6 7
○教室での聞こえにくさへの配慮	6 8
○机や椅子が出す大きな音を軽減する	6 9
○言語経験の少ないことによる配慮	7 0
○聞こえにくさへの周囲の理解	7 1
○聞こえにくさによる心理面の配慮	7 2
○聴覚障がい者との交流の機会の情報提供	7 3
○聴覚障がいの専門機関の活用	7 4
○聴覚障がいに対する周囲への理解啓発	7 5
○聴覚障がい児に対する災害時の支援体制	7 6
○聴覚障がいに対する校内環境のバリアフリー化	7 7
○聞こえの環境を整備する	7 8
○（独）国立特別支援教育総合研究所 インクルーシブ教育システム構築支援データベース （略称：インクルDB）の紹介	7 9

《MEMO》

手指を使った細かい作業への配慮



■合理的配慮の内容

紙粘土の扱い方を手順やコツをイラスト入りでまとめた「お助けカード」を提供する。

■合理的配慮の詳細

この配慮を提供した児童は、手指を使った細かい作業を苦手としています。紙粘土を扱った学習においても同様で、丸める、伸ばすなどの作業のコツや手順をイラスト入りで分かりやすくまとめたカードを用意しました（可能な限り、教員が側で手を添えてサポートをしてあげることが望ましいですが、他の児童らの指導・支援もしなければなりません）。



■児童の様子

「お助けカード」を見ながら、紙粘土を様々な形に加工し、自分がイメージしたものを作ることができました。カードがあることで、製作への意欲も持続していました。

なお、対象児のグループの作業机だけでなく、全てのグループにカードを配布したところ、教員が当初想定していなかった児童も活用している様子が見られました。

■授業のキーワード■

手指、粘土、手先、コツ、器用、イラスト、作業、お助けカード、微細運動

体の動きがぎこちない



■合理的配慮の内容

段階別に達成可能な目標（スモール・ステップ）を設定する。

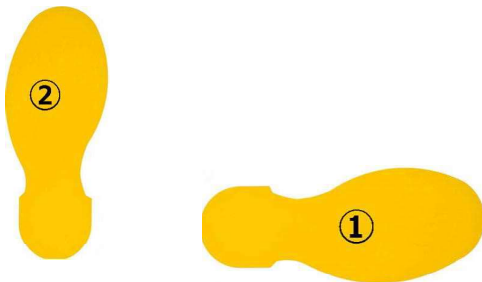
■合理的配慮の詳細

投球動作を手首の使い方、腕の振り方、体重移動と分けてポイントを学習をしました。

- ①手首の使い方：紙でっぼうの音を鳴らす。
- ②腕の振り方：腕の振り方のポイントを絵で示す。



- ③体重移動：「うんとこしょ」の言葉に合わせて足形の①から②へ重心を移動し、その後、①～③の動作を連続して行いました。



■児童の様子

一つ一つの身体の部位の感覚を身に付けることができました。

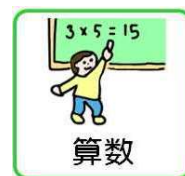
また、動きを具体的にイメージすることができました。教員がそばについて児童が教員の動きを模倣することにより、動きのタイミングや動かし方のポイントがつかみやすくなりました。



■授業のキーワード■

身体、ぎこちない、投球動作、ボール、動き、タイミング、手首の使い方、イメージ

図形の面積を計算することが難しい



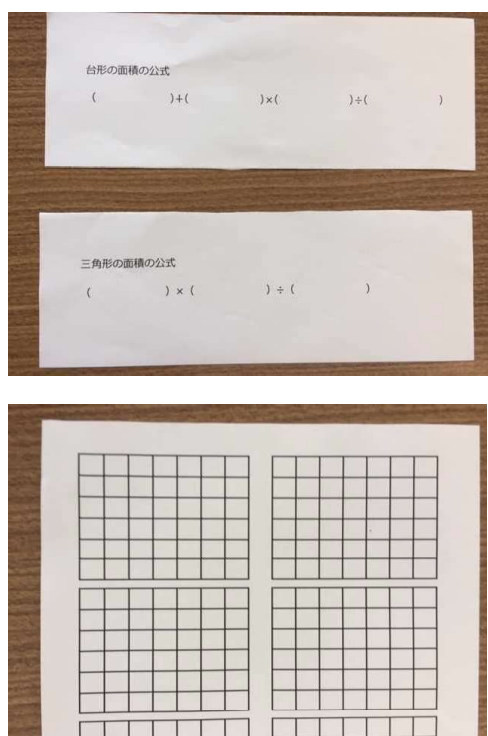
■合理的配慮の内容

ヒントカードを用意したり、ます目のワークシートを提示したりする。

■合理的配慮の詳細

まず、図形の公式が確認できる「ヒントカード」を用意しました。

加えて、計算の過程が視覚的に把握しやすくなったり、筆算の位取りそのものが分かりやすくなったりすることをねらって、ワークシートにます目を入れたものを提供しました。



■児童の様子

準備したものの中で、提供の対象とした児童が活用しなかった合理的配慮もありましたが、それ以外の児童に対する手だてになり、効果的であったと言えます。

公式のヒントカードは、対象とした児童に渡すだけでなく、児童のつぶやきを教員がそばで聞きながらカードに書くことで発言を促したり、自分で公式に数字を当てはめて考えるように促したりしました。

■授業のキーワード■

ヒントカード、図形、公式、ます目、ワークシート

不安が強く書いたり話したりすることが難しい



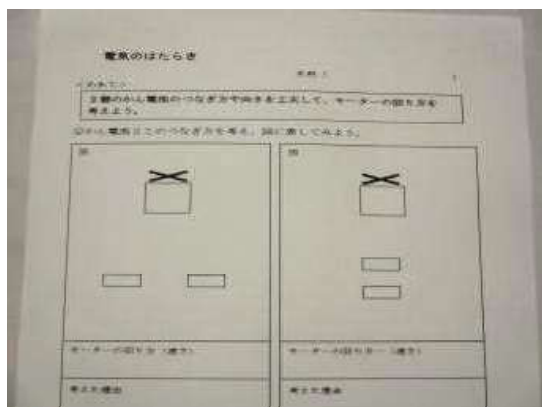
■合理的配慮の内容

- ・課題の提示方法を工夫する。
- ・考えを記入するためのワークシートの体裁を工夫する。

■合理的配慮の詳細

課題提示の工夫として、実際に具体的事象を提示しました。(モーターの回転の速さが異なる2つの場面を見せ、変化の原因を考える)

また、ワークシートにあらかじめ、モーターと乾電池の図を加えて、導線を描けばよいだけにしたり、モーターが速く回る理由を選択肢から選んだりすることができるようにしたりしました。



■児童の様子

導入でモーターの回転の速さが異なる2つの場面を実演したことは効果がありました。

ワークシートの工夫で、自分の考えを図で表せるので安心して表現できていました。

ただ、本時は対象とした児童の情緒が安定していなかったことも関係して、ワークシートに施した工夫の中で、選択肢から文を選んだり文で表すためのキーワードを示したりする方法を積極的に活用する様子はほとんど見られませんでした。

■授業のキーワード■

不安、課題の提示方法、ワークシートの工夫、キーワードの提示、考えの選択肢化

図形に関する概念が弱い

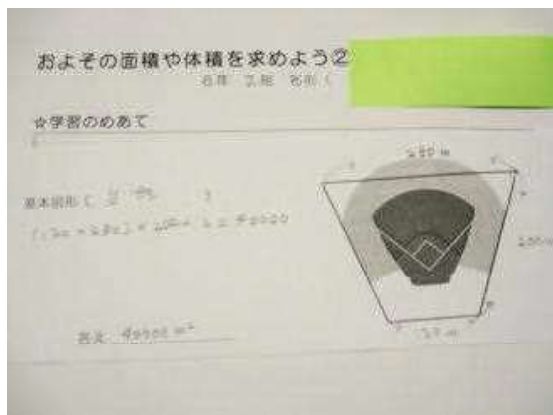


■合理的配慮の内容

透明のシートをワークシートに重ねて図形を捉えられるようにする。

■合理的配慮の詳細

基本図形が描かれた透明のシートを教員が自作しました。別々のプリント同士を見比べる場合と比較して、直接ワークシートに重ねることで図形を直感的に捉えやすくなるよう工夫しました。



■児童の様子

事前の検討の際に合理的配慮提供の必要があると考えていた児童は、透明のシートを活用しませんでした。(活用しなくてもワークシートに概形を記入する活動には、スムーズに取り組むことができました。)

本時に用意していた図形の透明のシートは、他の児童2名が活用しました。

■授業のキーワード■

不安、課題の提示方法、ワークシートの工夫、キーワードの提示、考えの選択肢化

十進法の位取りの関係の理解や計算の過程を考えるのが難しい



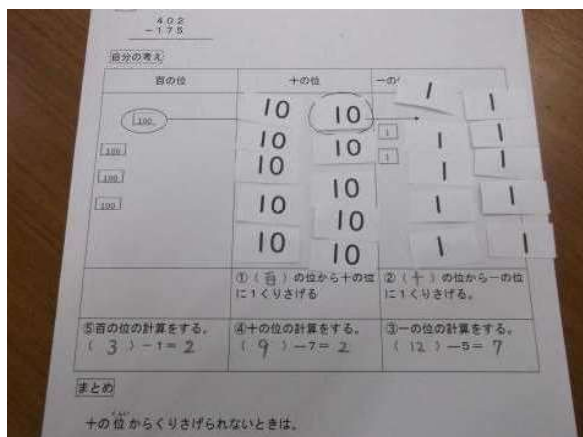
■合理的配慮の内容

- ・位取り表や数カードで、視覚的に位の概念を捉えるやすくする。
- ・ワークシートの体裁を工夫し、計算に必要な乗法に着目して考えられるようにする。

■合理的配慮の詳細

ノートに考えたことを書き表すことが難しかったり、計算の操作などを考える際は、具体物を用いることが多かったです。児童に合理的配慮を提供しました。

位取りを考える際は、位取り表と位毎に数のカード（1、10、100のカード）を活用して操作しました。計算の手順を考える際は、矢印や穴埋め式で記入して説明するワークシートを活用して考えました。



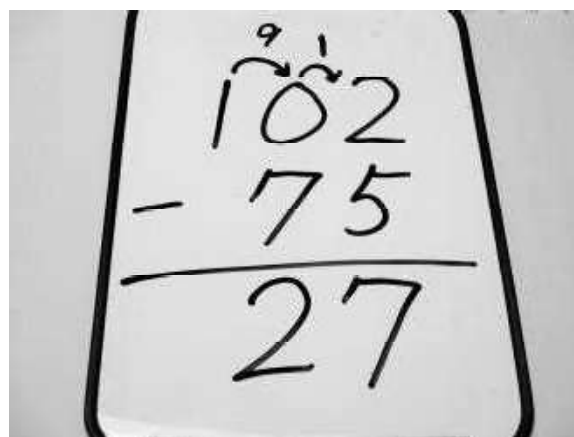
■児童の様子

●位取り

カードの操作や視覚的な情報をとおして、位の概念を捉えることができました。

●計算の手順

書く負担を減らすことにより、時間にゆとりが生まれ、考えることに集中することができました。



■授業のキーワード■

ワークシートの工夫、穴埋め、数のカード、既習事項の活用

自分の考えを文章で表現することが苦手



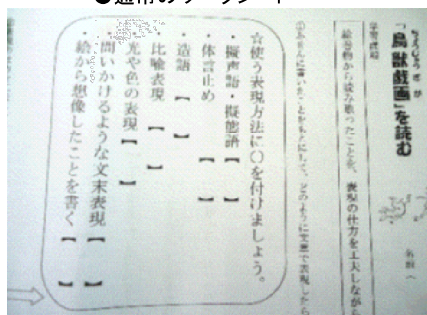
■合理的配慮の内容

表現の仕方を工夫しながら書き表せるようにワークシートを改良する。

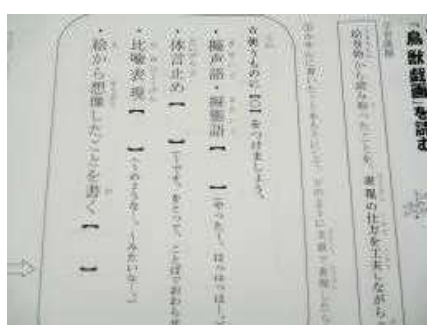
■合理的配慮の詳細

通常のワークシートの他に、児童に使わせたい表現方法の工夫（擬声語・擬態語、体言止め、比喻表現、絵から想像したこと）について、その具体的な文例を載せたワークシートを用意しました。

●通常のワークシート



●合理的配慮を施したワークシート



■児童の様子

- ・ 具体的文例（例：比喻表現～のような・・・。～みたいな・・・。）の中からから、使いたい表現を選ぶことができました。
- ・ 自分が選んだ表現を使って文章を書くことができました。
- ・ 課題に進んで取り組み、最後まで、自分の力で書き上げることができました。

■授業のキーワード■

ワークシートの工夫、具体例、文例、表現、自分の考え

初めての活動は一斉指示のみで理解することが難しい



■合理的配慮の内容

手順などを個別に説明するために、学習指導講師が直接的な支援を行う。

■合理的配慮の詳細

操作手順を正しく理解したり、操作したりすることに弱さがあります。また、周りの状況を判断して行動することが難しく、衝動的に立ち歩くこともあるため、周囲に合わせて活動することにも困難さがあります。

学習指導講師が寄り添って、一緒に考えたり操作したりすることで、学習の理解や操作手順の理解ができるように配慮しました。同時に、衝動的に立ち歩くことを減らし、周囲の状況を掴む力の形成をねらいました。

■児童の様子

時計を使って「何時」を表す操作は、学習指導講師の支援があったことで繰り返し取り組むことができました。また、隣の友達と時計を見せ合う時には、学習指導講師が繰り返し促すことで活動が成立しました。



■授業のキーワード■

手順の理解、直接的支援、学習指導講師

既習事項を新たな学習につなげることが難しい



■合理的配慮の内容

新しい学習である計算の仕方を考えるにあたり、既習の方法を準用できるワークシートを用いたり具体物（計算カードなど）を用いたりする。

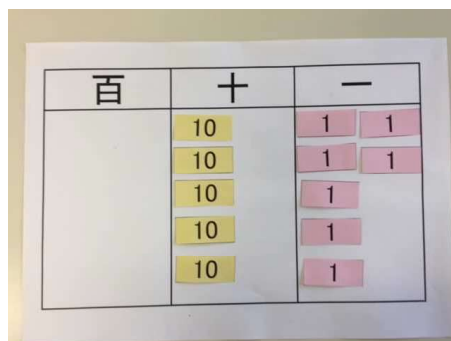
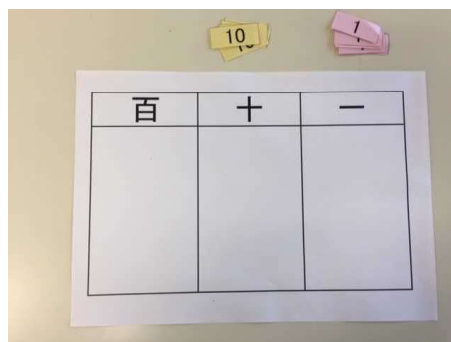
■合理的配慮の詳細

既習事項を新たな学習につなげることが難しいお子さんです。既習事項の繰り上がり及び繰り下がり仕組みは理解していますが、3位数－2位数の繰り下がりについては、理解が十分でないため、専用のワークシートを開発しました。

加えて、計算カードなどの具体物を操作することで筆算の仕組みが理解しやすいように工夫しました。

■児童の様子

ワークシートを工夫したことで、既習の繰り下がりの方法を使って、3位数－2位数の計算を考えることができました。併用した計算カードと位取り表は、カードの大きさや厚さなどが扱いやすく、実際に操作することで繰り下がり仕組みを考えやすくなりました。



■授業のキーワード■

既習事項、適用、筆算、仕組み、可視化、計算カード、具体物、操作

マット運動が苦手



■合理的配慮の内容

- ・体が回転する感覚に恐怖心があるため、教員が直接的若しくは身体的な補助をする。
- ・動きのイラストを提示したり、マットに手形を付けたりする。

■合理的配慮の詳細

発達をつまづきがあるため、回転する運動を極端に怖がる児童です。このような運動に取り組む時には、最初のうちは必ず教員が当該児童の側に寄り添い、体を直接支えて補助をするように配慮しました。



また、手足の形や位置、頭の方角などを記したイラストカードをマットのそばに提示したり、手形をマットに置いたりしました。

■児童の様子

教員が体を直接支えて補助を繰り返すことで、恐怖心を取り除くことができました。

手足の形や位置、頭の方角などを記したイラストを提示することで体の動かし方のイメージをつかめたようでした。同様に、手形を実際にマットに置くことで、手をつく正しい位置を意識することができました。



■授業のキーワード■

回転、運動、怖がる、マット、印、身体的ガイダンス、直接、補助、動かし方、イメージ

結果の予測が難しい課題や勝敗がつく活動に苦手意識をもつ



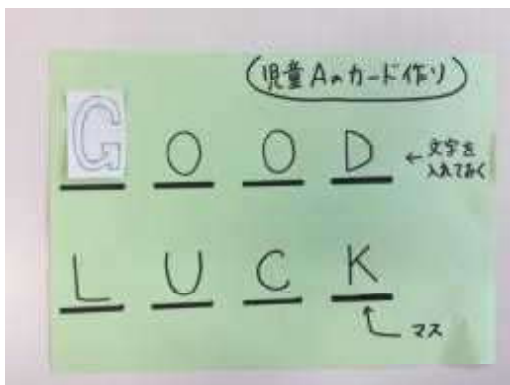
■合理的配慮の内容

学習グループを前後半に分け、対象の児童が活動するグループを後半にし、見通しもちやすくする。

■合理的配慮の詳細

提供の対象となった児童は、状況に応じて気持ちや行動を切り替えることが苦手な児童です。そこで、配慮を提供する対象児童の学習する順番を後半にすることで、内容理解を促し、学習の流れに見通しをもって安心して学習に取り組めるように配慮しました。

さらに、活動自体も、勝敗がつかない“カードにアルファベットを集めて言葉を作る”というアクティビティを導入し、活動しやすいようにカード自体にも工夫をしました。



■児童の様子

配慮の対象とした児童は、先行グループの学習の様子を見ることで活動の内容や手順が明らかになり、情緒的にも落ち着いて学習に取り組むことができていました。また、「勝敗がつかない」「自分一人のできる」学習活動だったこともプラスに作用していました。

なお、本児は、友達との関わり合いよりも、大人との関わりの方が多く見られましたが、自分からアルファベットを集めに行くなど積極さもみられ、ます目などを工夫したカードの存在が効果的だったと言えます。

■授業のキーワード■

勝敗、こだわり、不安、先行チーム、学習の流れ、学習内容、理解、見通し

資料の内容理解が難しい



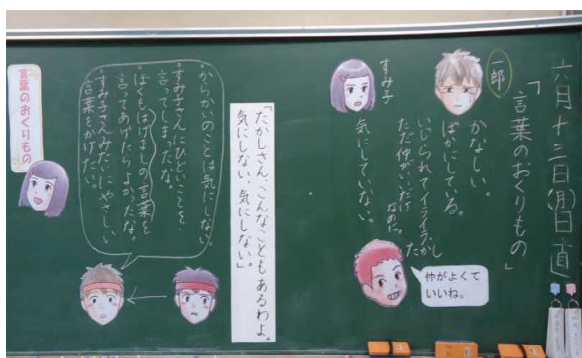
■合理的配慮の内容

資料を範読する際に、挿絵や登場人物の顔の絵を併せて提示する。

■合理的配慮の詳細

道徳の授業では、教師による資料の範読を聞くだけでは、内容の理解が難しいお子さんです。資料の内容に沿った挿絵を電子黒板で投影しました。

加えて、登場人物の顔の絵を黒板に掲示することで表情の変化を捉えやすくしました。



■児童の様子

対象の児童は、はじめは黒板を見ずに文章を目で追うことができていました。途中からは黒板にも目線を動かしていたことから、範読を聞きながら電子黒板の挿絵を手がかりに場面の状況を捉えていたことがうかがえます。

また、登場人物の顔の絵を黒板に掲示することで、表情の変化を捉えることが容易になり、気持ちも想像しやすくなりました。

■授業のキーワード■

範読、挿絵、電子黒板、登場人物、顔、表情の変化、気持ちの変化

登場人物の気持ちを考えて表現することが難しい

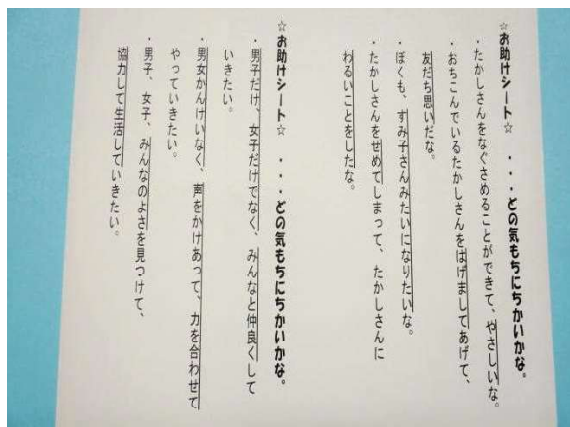


■合理的配慮の内容

児童が考えたことを教員が聞き取って書きやすい言葉に置換したり、「お助けシート」を渡したりする。

■合理的配慮の詳細

考えたことを表現することが困難な児童です。教員が聞き取り、本児が書きやすい言葉にして「・・・ということですね。」と確認をし、ワークシートに記入させました。



しかし、それでも登場人物の気持ちを考えて表現することが難しい場合は、お助けシート（選択肢を与える）を渡し、その中から児童自身に、自分の考えに近いものを選びせました。

■児童の様子

登場人物の気持ちを考えて表現する際は、本児に考えを聞き取ると、登場人物の気持ちを表現することができたので、「・・・という気持ちだったのですね。」と確認し、その気持ちをワークシートへ記入させました。

自分の生活に振り返って考えをもつ際は、手が止まってしまい困っている様子が見られたため、お助けシートを渡したところ、自分の考えに一番近いものを選んで書くことができました。さらに、そのことで、自分の考えをもち、友達との交流でも発表することができて、嬉しそうなお顔が見られました。

なお、児童に選択肢を与えることは、解答の表現方法への支援であり、考えの幅を狭めてしまうことにはならないと、捉えています。

■授業のキーワード■

教員、聞き取り、お助けシート、選択肢、考えの幅

学習問題に関心を持ち、予想を立てることが難しい



■合理的配慮の内容

生活を支えている工業製品の生産地を調べる際に、対象児童が興味のもてる工業製品を扱う。

■合理的配慮の詳細

どこで作られているか調べる対象となる工業製品を提示する際に、携帯ゲーム機やスナック菓子など対象の児童が興味のもてるものを含ませておくことで、学習問題の解決へ向けて意欲的に予想を立てることができるように配慮しました。

■児童の様子

学習問題への予想を立てる際に、身の回りの工業製品から5つの例を提示し、その中から1つ選んで予想を立てさせました。

例示した5つの製品はどれも対象の児童が興味をもちそうなものであったため、児童は自分の興味のあるものを選び、予想を立てる活動に取り組むことができました。

■授業のキーワード■

工業製品、児童の興味、身近なもの、学習問題

考えをはっきりと伝えることが苦手



■合理的配慮の内容

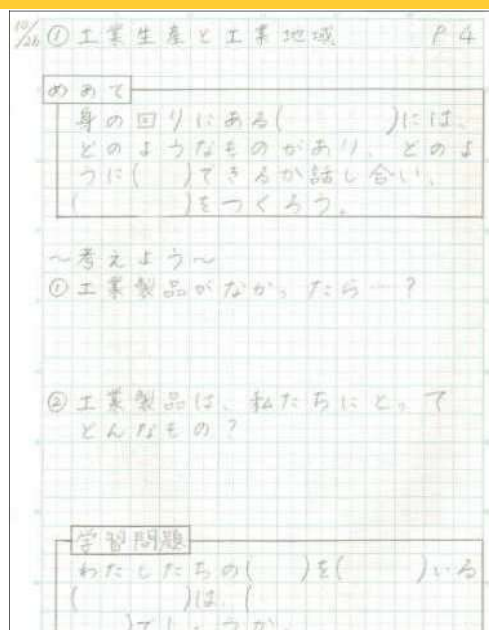
教員が個別に聞き取り、内容を整理する。

■合理的配慮の詳細

考えをもたせる際、教員が対象児童の傍らで個別に聞き取りました。聞き取った内容を穴埋め式のノートに整理し、考えをはっきりさせやすく工夫しました。

さらに、考えや思いを表出させることに不安感もあるため、グループで考えを伝え合うときは、対象児童の側に寄り添って見守ることで安心できるように配慮しました。

■児童の様子



聞き取った内容を整理した穴埋め式ノートを用意したことで、全体の学習の進度に大きく遅れをとることなく参加できました。加えて、全体へ発問を投げかけた後、再度個別に声かけをすることで、集中して考えることができました。

■授業のキーワード■

個別 聞き取り 個別の声かけ 穴埋め式ノート



友達の考えを理解したり、自分の考えを表したりして意見の交流をすることが難しい

■合理的配慮の内容

「質問の技カード」の活用、教員が対象児童の考えを聞き取りパソコンでまとめる。

■合理的配慮の詳細

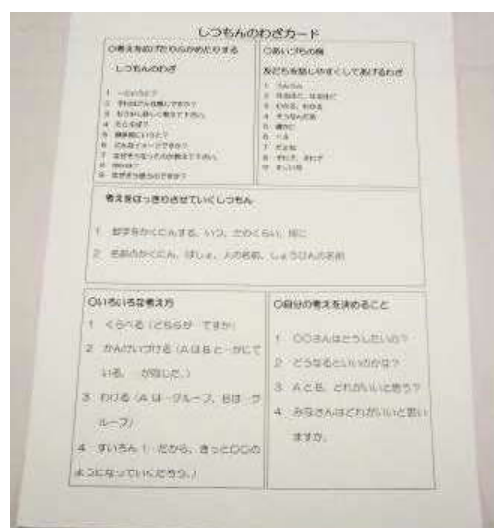
対象の児童に「質問の技カード」を配布し相手の意見を認めたり賞賛したりすることができるように配慮しました。

さらに、自分の考えをまとめた提案書は、教員が対象児童の考えを直接聞き取り、それをパソコンを使ってまとめたものを利用しました。

■児童の様子

「質問の技カード」を活用したことで相手の話に対し、自分の考えを表現する場面が見られました。

また、児童の考えを基に作成した提案書を使うことで自分の考えに対して自信をもち、グループの友達に伝えることもできました。



■授業のキーワード■

質問の技カード パソコン まとめる 聞き取り



板書を書き写すなど書くことが苦手

■合理的配慮の内容

カメラや思考の可視化で、書く内容を明確にする。

■合理的配慮の詳細

この配慮を提供した児童は、板書を書き写すことに時間がかかり、書いている途中で他のことに気が向いてしまいます。また、自分の思いや考えを文章で表現することが苦手です。

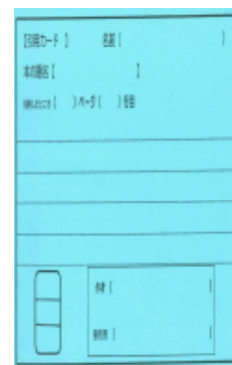
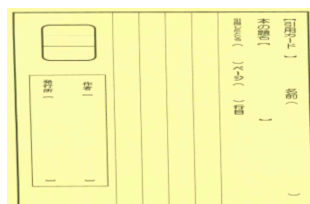
板書はカメラで撮影した内容を手元で身ながら書き写すことで、視線を動かす距離を短くし、文字を書きやすくしました。

ワークシートは、書き写す物に合わせて縦書きと横書きを用意し、選択できるようにしました。文字の始めをカードに記入し、書き写す箇所を明確にしました。

教師が寄り添い、児童の思いを口頭で話をさせ、述べた内容を教師が文章で表すことで、児童の思いを可視化しました。

■児童の様子

書き写すものを間近にみたり、書き方を合わせたりすることで、どのように書くのが明確になり、意欲的に書く活動に取り組めるようになりました。



引用カード（縦・横）

■授業のキーワード■

板書、カメラ、可視化

手指を使った細かい作業が苦手



図画工作



生活

■合理的配慮の内容

折り紙の折り方を、手順に沿って小さな折り紙で折り、順番にはりつけた手順表を提供する。

■合理的配慮の詳細

この配慮を提供した児童は、手指を使った細かい作業を苦手としています。折り方を絵で示しても、折り紙のどこの線と角を合わせるのか迷ってしまいます。そこで、折り紙のどこの線と角を合わせるのか等、実際に折って確かめられるように折り方表示を工夫しました。折る際、折り紙を置く向きも折り方表示の一つとして示す等児童の理解しやすさに配慮しました。



■児童の様子

折り方の見本に合わせて折り進めることが一人でできるようになりました。児童の状況に合わせて、補助線の入れ方を工夫するとより分かりやすくなりそうです。



■授業のキーワード■

手指、折り紙、手先、作業、折り方表、微細運動

音に敏感だったり、目に入るものに 意識が向き注意散漫になりやすい



■合理的配慮の内容

集中しやすい環境を提供する。

■合理的配慮の詳細

机や椅子の脚に脚カバーやテニスボールを付け、動かす時に生じる耳障りな音がなくなるようにしました。移動式の衝立を用意し、必要に応じて机の横に置いて、不必要な掲示物や周囲の児童の様子が目に入らないようにしました。



テニスボールで
代用する場合は、
化学物質に過敏
な児童・生徒に



配慮が必要です。
←動かす時に音がしないタイプの椅子もあります。

■児童の様子

耳障りな音がなくなり、教師や児童の声や話に集中することができました。衝立を使用するとともに、机の向きを児童の落ち着く場所に移動するようにしたところ、集中して個人の課題に取り組むことができました。



■授業のキーワード■

集中、聴覚刺激、視覚刺激、衝立、机椅子の脚カバー、テニスボール

定規で線を引いたり、目盛りを 読んだりすることが苦手



■合理的配慮の内容

目盛りが見やすく、押さえやすいものさしや定規を用意する。

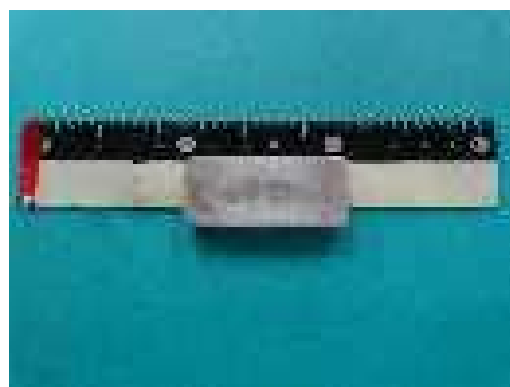
■合理的配慮の詳細

ものさしは黒く塗られていて透けることができなく、目盛りは白で表示されていて、分かりやすいものを用意しました。指先に力が入り難い場合は、ある程度幅があり、押さえやすいものを選び提供しました。



■児童の様子

色が黒く、目盛りが白いものさしは、測る時に合わせやすく、目盛りも読みやすいので、測ることへの興味が増しました。定規は指で押さえる位置にシールやスポンジや消しゴムを貼ることで、指先でおさえることが理解しやすくなりました。0の目盛りに赤く色をつけて意識しやすいようにしました。



■授業のキーワード■

ものさし、測る、長さ、指先

やり方やルールを児童に個別指示することを減らしたい

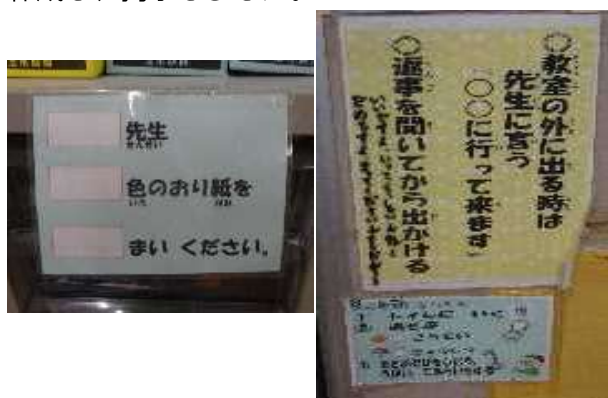


■合理的配慮の内容

自分から状況に応じた行動をとったり要求を伝えたりできるように、やり方や伝え方の表示を作成し、表示する。

■合理的配慮の詳細

この配慮を提供した児童は、簡単な言語の理解はできますが、思いついたらすぐ行動してしまう傾向があり、言葉を、コミュニケーション手段として使うことに支援が必要です。言葉によりイメージを持つことも苦手で、詳しく説明しても覚えられない様子が見られます。本児に分かりやすい具体的なやり方や言い方で表示を作成し、掲示しました。



■児童の様子

表示を使って行動するように一緒に取り組み、表示の使い方が分かったら、表示を使うよう言葉掛けを続けました。表示を手掛かりにして要求が実現すると、言葉を使って要求するようになったり、表示で確認して状況に応じた行動がとれるようになりました。



* 左の写真は、取り組むことが上から順番に書いてある。短冊状になっていて、マグネットで黒板に張りつけられる。取り組んだら順番に裏返していくと児童の好きな写真(右の写真)になる。

■授業のキーワード■

見通し持つ、ルール理解、個別指示、状況に応じた行動、表示、要求する、適切な言い方

朝会で身体を動かしたり、独り言を話したり

集中して参加しづらい児童への配慮



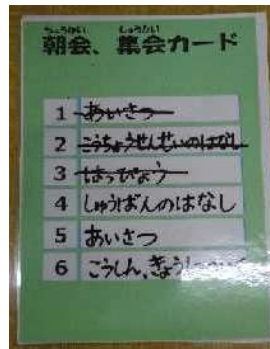
■合理的配慮の内容

見通しを持って参加したり、状況に応じた行動がとれるように、内容を表示する。

■合理的配慮の詳細

朝会の内容を順番に小さなカードに表して見せます。全体の見通しを持たせた後、終わった内容には線を引き、終わったことを示します。意識してほしい行動や態度を絵や文字で示しておき、注意を促します。行動できたり、態度がとれた場合はすぐ褒め、花丸を付けて認めるようにします。

おもて面：線を引いて、終わったことを示す。



■児童の様子

朝会の内容を、毎回6個にまとめて表すようにしました。繰り返すうちに、「今3番目だから、あと3個で終わりだね。」と声を掛けると、集中が戻ったり、「あと何個で終わるの?」と尋ねてくるようになりました。自ら見通しをもとうとする意識が育ちました。指で何番目かを示しておく、効果的です。

うら面：姿勢、態度など児童に意識して欲しい



ことを示します。

できたら花丸をつけて評価すると、児童のやる気につながります。

■授業のキーワード■

見通し持つ、朝会、集会に参加する、評価

制作の初期段階で理解できない



■合理的配慮の内容

評価に直接関係のないところは個別対応のプリントを渡す。

■合理的配慮の詳細

今回は木彫なべしきのデザインを始めるときに使用しました。なべしき型の木材にデザインを始めるときに枠や基本の線を自分で引くため、プリントにも枠や基本の線は入っていません。枠や基本の線は直接は評価につながらないので、時間のかかる生徒には枠や基本の線が入っているプリントを渡して、次の段階に進ませました。



■生徒の様子

制作の初期段階で、理解できずにやる気を失っているように見えました。けれども、プリントを渡ししながら、詳しい説明を加え、次に進めることで安心感を感じているようでした。次の段階に進み、分からない、自信がないところを質問するようになりました。



■授業のキーワード■

プリント

プリントのどこに書いていいかわからない



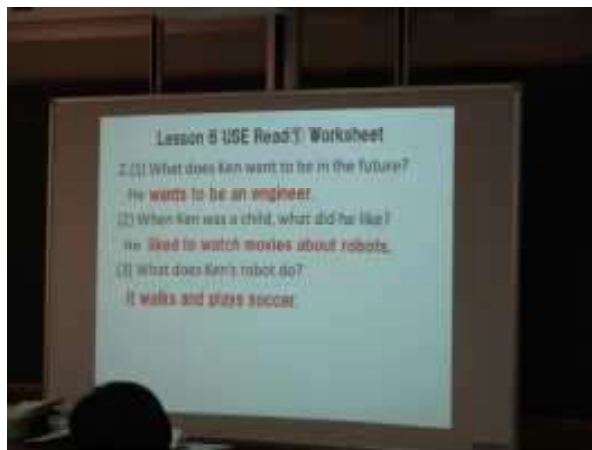
■合理的配慮の内容

プリントと同じ内容をスクリーンに映し、答えを赤文字で映す。

■合理的配慮の詳細

プリントと全く同じレイアウトの学習内容をスクリーンに映しました。生徒はどこに書けばよいか、説明が無くて書くことができます。

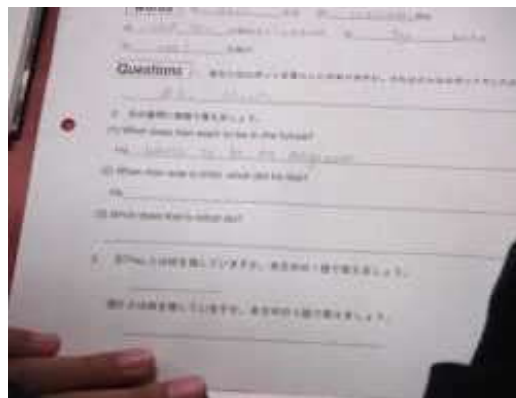
答え合わせもスムーズにできました。



■生徒の様子

正しい答えなどを板書を見てプリントに写すことができず、遊んでしまったり、ぼうっとしたりしていましたが、すぐに書きだすことができていました。

学習してほしい内容をプリントにして、生徒に配布しても生徒が何をどこに書けばいいかわからなければ学習効果は上がらないので書きやすく見やすく復習しやすいことは大切なことだと思います。



■授業のキーワード■

プリント 電子黒板の活用

何を考えればいいのか分からない



■合理的配慮の内容

ヒントカードをわたして、考える内容や答えを導く。

■合理的配慮の詳細

ヒントカードは教科によって内容や形式が違ってきますが、時間があればカードを示しながら、説明することで少しずつ先に進めることができます。

★友達と話すこと

①自分が 文章にしたい ぶんせんに ^{えらぶ} 選ぶ

②自分が 使いたい表現を ^{えらぶ} 選ぶ

③どのように表したらよいか 友達の考えを 聞く

ヒントカードの例①

■生徒の様子

物語を見るような感じで順を追って読むことで理解が深まってきたようです。

★友達と話すこと

- ①友達の 考えや なやんでいることを 聞く
- ②友達に アドバイスする

ヒントカードの例②

★友達と話すこと

- ①自分が ぶんせんに 書いたことを 話す
- ②友達が ぶんせんに 書いたことを 聞く
- ③友達の考えを 書く

ヒントカードの例③

■授業のキーワード■

ヒントカード

全体の指導では指示が聞けない



■合理的配慮の内容

指示の内容をスクリーンに映し出す。 マグネットシートで掲示する。

■合理的配慮の詳細

声で知らせるだけでなく電子黒板又は黒板にタイマーや、やることを表示して、視覚にも訴え、指示を分かりやすくしました。



■生徒の様子

全体指示、声だけの指示では、聞き漏らしたりして行動できていなくても、スクリーン（またはマグネットシート）を見ることで確認ができます。また、個別対応での声かけもスクリーンや黒板を指し示し、目と耳で共通理解ができました。

■授業のキーワード■

電子黒板 スクリーン マグネットシート

文字がまっすぐに書けない



■合理的配慮の内容

罫線入り、マス目入りのプリントを渡す。

■合理的配慮の詳細

罫線やマス目が入ったプリントを別に用意して個別に渡します。



■生徒の様子

罫線や、マス目のないプリントよりは書きやすいようでした。中学校に入ると枠だけの書き込み欄や細かい罫線になることが多いので、1年生のころから個別に、書く練習をさせれば、さらに良かったようです。読み手が読みやすくなりました。

■授業のキーワード■

罫線 マス目 プリント



車いす使用者への配慮

■合理的配慮の内容

エレベーターのない校舎で車いすを使用するため、階段昇降機を導入する。

■合理的配慮の詳細

この配慮を提供した児童生徒は、車いすを使用しています。エレベーターのない校舎では、階段の上り下りは困難です。

その場合、教育委員会事務局で、階段昇降機を学校に貸し出しています。

階段昇降機は移動式のもので、キャタピラーで動きます（写真参照）。固定式ではないため、使用しない時は、倉庫等で保管することができます。

また、介添員を配置し階段昇降機の操作をお願いしています。

他の児童生徒へは、階段昇降機の必要性和、安全への配慮を指導しています。

■児童生徒の様子

階段昇降機の動きが安全に配慮しているため非常にゆっくりなので、移動に時間はかかります。他の児童生徒へは、階段昇降機の必要性和安全への配慮を指導し、理解を得ました。



■授業のキーワード■

階段昇降機・介添員・エレベーター・安全配慮